

みたま ちか 御霊への誓い

いの へいわ つく へいわ
～祈る平和から創る平和へ～



しゃしん ないとうたつろう
写真 内藤達郎

おりづる再生紙使用 さいせいししよう



写真 しゃん ないとう たつろう
内藤 達郎

はじめに

忘れないで

戦争は人間が人間を殺しあう愚かなことです。1945年8月6日広島に投下された原子爆弾は無差別殺人兵器です。一発の原子爆弾の爆風は1秒間に440メートルです。これは台風の数十倍で、熱線は太陽に等しく、地上に降り注いだ熱は約4000度でした。1平方メートル35トンの風圧は、あの恐ろしい「きのこ雲」を作り、数十キロ先まで黒い雨を降らせ、尊い命を奪いました。人々の肉体は裂かれ、溶かされ、内臓は飛びだしました。みんな生きたまま家の下敷きになって、助けを求めながら亡くなりました。そして、焼き殺されたり、やけどに耐えきれず川に飛び込んだり、防火用水に身体をうずめながら無残な死を遂げた人々も大勢いました。

それだけではありません。生き残った人々も家を焼かれ、身内を奪われ、我が身も傷つき、まさに地獄のようなあり様でした。

しかし人間はたくましく、また素晴らしい。そう受け止めて下さい。あの惨劇から、明日を生きることにより力を振り絞り、平和都市ヒロシマを築き上げて下さった先人たちに、私達は感謝の気持ちを忘れてはなりません。

今の平和は犠牲の上にあることを今一度思い起こし、生きたくても生きることの出来なかった方々「御霊」に私達は誓いましょう。みんなが笑顔で平和な世界を築いていくことを。

被爆者 佐藤 廣枝

目次

市長のメッセージ	・・・ 2
第2次世界大戦の犠牲者	・・・ 3
万人の祈りの樹	・・・ 4
森本順子さん	・・・ 6
被爆者からのメッセージ	・・・ 12
一般からのメッセージ	・・・ 16
影絵	・・・ 19
広島市立商業高等学校	・・・ 20
大学生の思い	・・・ 24
川内小学校	・・・ 26
平和のテーブル	・・・ 28
HPS 活動記録	・・・ 30
あとがき	・・・ 35

市長のメッセージ



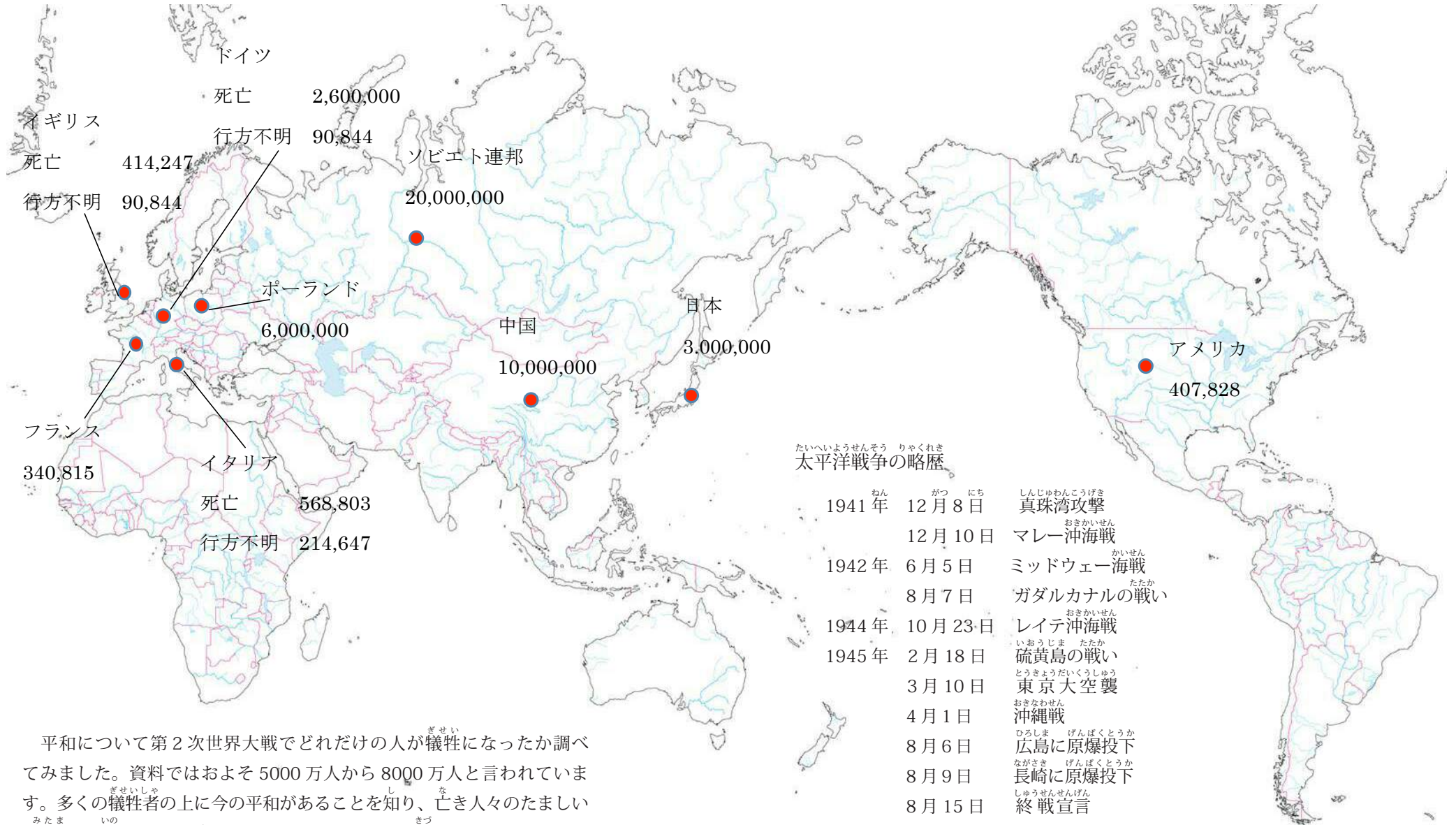
1945年8月6日の朝、一発の原子爆弾により広島は破壊し尽くされ、子供からお年寄りまで、多くの尊い命が奪われました。その辛さや苦しみは、私たち人類が二度と核兵器による悲劇を繰り返すことのないよう、記憶し続けなければならないものです。

あれから72年が経ち、その記憶を語れる被爆者が少なくなる中、未来に向けて、被爆者の体験や思いを伝えていくには若い世代の力が必要です。この本を手にした皆さんには、「核兵器のない世界」の実現に向けて行動を起こされている人々の姿や、メッセージを寄せられた方々の平和への思いをしっかりと受け止めていただき、皆が幸せに暮らしていくためにはどうすればよいかを考え、家庭や学校など身近なところから行動する勇気を持っていただきたいと思います。皆さんの平和への願いに基づく行動の積み重ねが、やがて世界中に大きな輪となって広がり、核兵器のない平和な世界の実現につながるはずです。皆さんのこれからの活躍を心から期待しています。



広島市長 まつい かずみ
松井 一實

第二次世界大戦の犠牲者



太平洋戦争の略歴

1941 年	12 月 8 日	真珠湾攻撃
	12 月 10 日	マレー沖海戦
1942 年	6 月 5 日	ミッドウェー海戦
	8 月 7 日	ガダルカナルの戦い
1944 年	10 月 23 日	レイテ沖海戦
1945 年	2 月 18 日	硫黄島の戦い
	3 月 10 日	東京大空襲
	4 月 1 日	沖縄戦
	8 月 6 日	広島に原爆投下
	8 月 9 日	長崎に原爆投下
	8 月 15 日	終戦宣言

国に書かれている人数は犠牲になった方の人数を示しています。

平和について第2次世界大戦でどれだけの方が犠牲になったか調べてみました。資料ではおよそ5000万人から8000万人とされています。多くの犠牲者の上に今の平和があることを知り、亡き人々のたましい(御霊)に祈りをささげ、争いのない平和な世界を築くためにお役に立ちたいとこの本を作ろうと思いました。みなさんも一緒に考えてください。

竹田 智博、佐藤 太紀

参考文献 <http://nvc.webcrow.jp/TR7.HTM>

こくさい HPS 国際ボランティアは訪問を記念して平和の樹を作成の様子



うえ あお そら てんさい
上 青い空ヒロシマより転載

ひばくしゃ かくだんたい おとす きねん
被爆者各団体、平和公園を訪れた国内外の人々と明日の平和を祈念し
て、7万人が眠っている供養塔の前で慰霊し心と心をつないだ。
また真珠湾にも被爆者各団体、学生達が折り鶴を約2000羽を寄贈した。



だいてうりょうほうもんきねん オバマ大統領訪問記念

まんにん いの き 万人の祈りの樹

だいてうりょう あべ
12月26日 オバマ大統領、安倍
しゅしょう しんじゅわん ついでほうもん
首相が真珠湾を追悼訪問
これを記念して千羽鶴を送る



おりづるを送った人々

こくさい えん
HPS 国際ボランティア・むつみ園・被爆者

ひろしましりつしょうこうとうがっこう きゅうひふくししょう ほぜん ねが こんしんかい
広島市立 商業 高等学校・旧被服支廠の保全を願う懇談会

未来の人達へのメッセージ



13歳の時に被爆しました。そして私は今85歳^{いた}に至り、昨年は脳腫瘍^{のうしゅよう}を手術^{しゅじゅつ}していただいて命をもう一度つないで貰^{もら}いました。

まだ生きている被爆体験者^{ひばくたいけんしゃ}は「今」、未来へと、原爆の恐ろしさを、原爆を作り使う人間の愚^{おろ}かさを、平和の大切さを、そしてそれらすべてを伝えるという事を「未来の人達」にバトンタッチしなくてははいけません。

半世紀以上前のあの日、私たち人間は地獄^{じごく}の扉^{とびら}を開けてしまいました。私の目の前で命を失っていった人々のあの無念^{むねん}と苦しみに何の「意味」があったのでしょうか？しかし、あのとてつもない残酷^{ざんぎやく}な光と轟音^{ごうおん}は私の記憶と一緒にどこかへ「消えて」しまうのではないか？そしてまたいつかあの恐ろしい扉^{とびら}が開いてしまうのではないか？

被爆体験者がいなくなる日、地獄^{じごく}の扉^{とびら}はまたどこかに静かに姿を現^{あらわ}すかもしれません。いや、もうその扉^{とびら}は私たちの近くにあるのかもしれません。

その扉^{とびら}をしっかりと封^{ふう}じて、二度と開かない事。平和を守り、その意味を忘れない事。それが唯一^{ゆいつ}、あの日、そしてその後、犠牲^{ぎせい}になった沢山^{たくさん}の人達の叫び声^{さけ}を無駄^{むだ}にしない事です。

今、私が手を握^{にぎ}れる貴方、その貴方はこれから始まる「未来の人達」の最初に立つ人達です。

えほん さつ か
絵本作家
もりもと じゅんこ
森本 順子

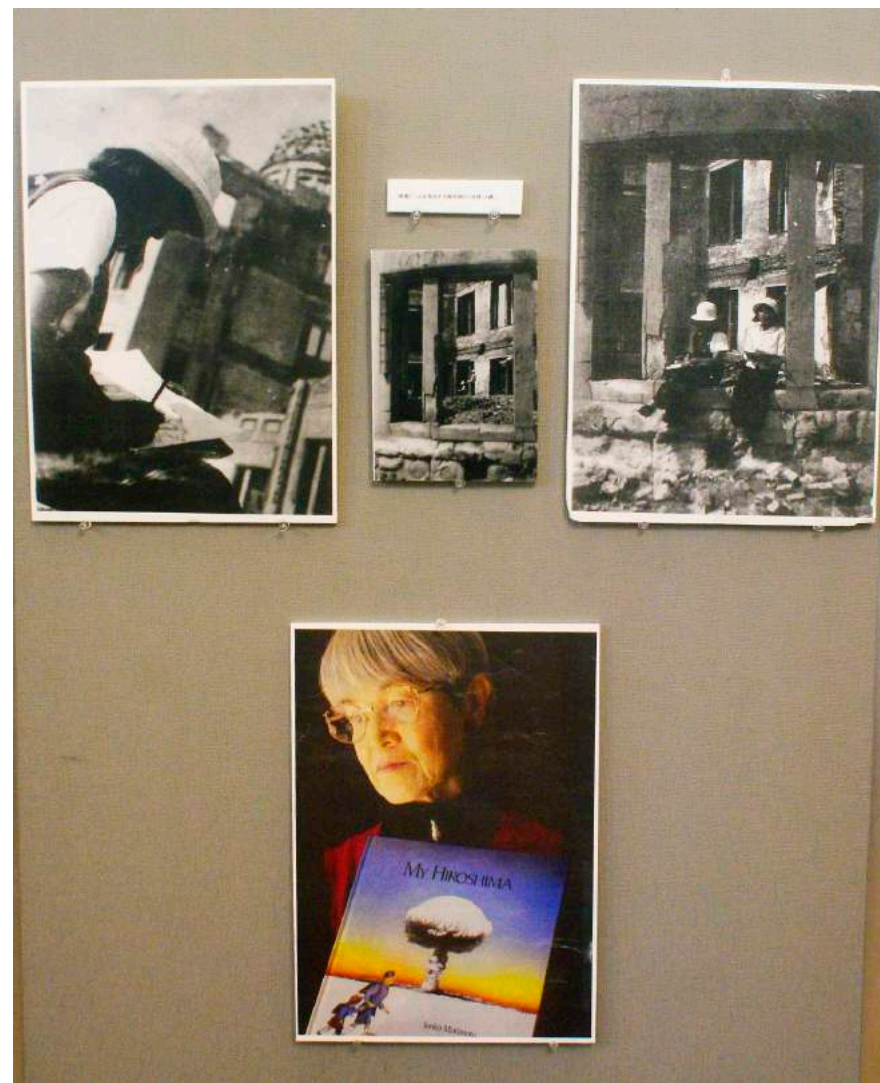
MyHiroshima しょうかい の紹介

- 1932ー広島市で出生
1945ー広島女学院高女2年時被爆
1955ー京都市立美術大学西洋画科卒
大阪市及び交野市の中学美術科教諭
児童画教室主催
1981ー大阪府交野市市史編集委員
交野市市民俗編全挿絵、交野市郷土史かるた全挿絵を担当
1982ーオーストラリアのシドニーに移住、墨象及び絵本の世界に入る
日本民話、日本文学をベースにしたもの、禅の話、創作話など
中でも「My Hiroshima」は自らの被爆体験を元にしたものである
英、米、豪、北欧、中国、韓国、日本などで計14ヶ国で出版
1987ーThe Children's Book Council of Australia より Book of the Year Award
イタリー・ボローニア国際絵本原画展入選2回
1988ーNSW 児童文学賞など計6回受賞
2004ー母校広島女学院中 高地沿いに女学院とNPOより、
絵本「My Hiroshima」の原画と詩が市民の「原爆絵碑」として設立

ここで、是非紹介しておきたい事がある。

1987年絵本「My Hiroshima」がオーストラリアでまず世に出た経緯である。

編集会議で日本は敵国であったことや捕虜虐待の問題などあげて論争の末、ついにロンドン本社社長を説得するなど高いハードルを幾つも超え、編集長のアン・イングラム女史は「人類として子ども達に是非教えておくべきこと」という強い信念を通して、ようやく出版が実現したのである。以来、アメリカをはじめ、英語圏の国々に広まり、日本でも出版され今日にいたっている。



12歳の被爆乙女、原爆の真実を書き留める

かいがい かつどう 海外での活動



中学校で絵本を使つての平和教育



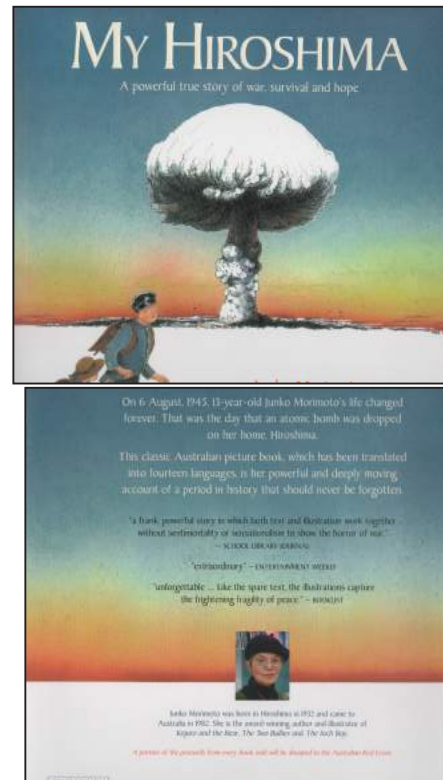
小学校での平和教育



絵で原爆の悲惨さを訴える



森本という校舎ができました



最終版を 2014 年 A Lothian Children's Books で出版



海外での活動



2011.7 月 5 日 メルボルンで開催されたフォーラム、「ICAN」
(インターナショナル キャンペーン 核兵器廃絶)の写真す。

講演者 左から

オーストラリア大学教授/ICAN 議長 Tilman Ruff 氏

Malcom Fraser もと首相閣下

森本順子 被爆者 画家 絵本作家

Helen Durham 博士 国際赤十字戦略アドバイザー

国立キャンベラ大学教授 Ramesh Thakur 氏

オーストラリアのシドニーで絵で被爆証言する森本さん



国内での活動



市民交流プラザにてサイン会



- 展 示 「わたしのヒロシマ」絵本原画展
広島国際アニメーションフェスティバル紹介パネル展
平和市長会議加盟都市 5,000 突破記念原爆ポスター展
子どもたちの平和ポスター展
- 署名コーナー 「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める市民署名
- スタンプラリー ~参加して賞品をもらおう! ~



旧 日本銀行広島支店にて



次世代への文字に込めた熱いメッセージ



小学校にて



みんなで力を合わせて完成させた

もりもとじゅんこ 森本順子さんの想いを繋ぐ



真剣に核の恐ろしさを語る



供養塔での慰霊と誓い



森本さんの想いを一つに



原爆の犠牲者に祈りを捧げた



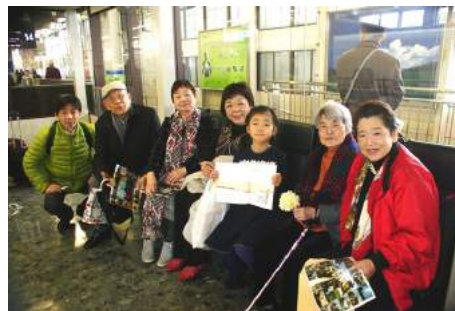
サポートする高校生



無念の死を遂げた人の想いを伝える



被爆者や仲間と平和への想いを繋ぐ



帰国する森本さんを見送る



オーストラリアへのお見送り

ヒバクシャ 故 ^{いまだ}今田 ^{ようこ}洋子さんからの伝言

記 ^{さとうひろえ}佐藤廣枝

今田洋子さんはサダコさんと同じ2歳の被爆者です。彼女は幼い頃の記憶はありませんが、両親達の苦しむ姿を見て、原爆は本当に恐ろしいものだとしんぞ持って知りました。絵が好きだった彼女はいろんなことを描いているうちに、平和に対する想いが強くなりピースボランティアに所属し被爆体験を話すようになりました。

^{きょうちくとう}夾竹桃はあの^{さんか}惨禍の中、一番最初に咲いた花として知られています。そのたくましさに願いをこめて、彼女は「^{きょうちくとう}夾竹桃と^{はと}鳩」を描くようになり、様々な活動を行いました。被爆電車の講師をするかたわら、「シュモアハウス」の本などを出版しました。また11月から私達H P S国際ボランティアと協力して若い世代



「ノーモア・ヒロシマ」

の育成をする予定でした。それなのに、この3月に原爆症で亡くなられました。鳩は未来を担う皆さんが「ヒロシマ」から世界へ飛ばしてくださいという平和のメッセージです。そういう彼女の願いを受け止めていただければ幸いです。

平和活動家 ^{すいぼくがか}水墨画家 老人大学^{こうし}講師

故 ^{いまだ}今田 ^{ようこ}洋子



老人大学にて

枕元に置かれていた最後の言葉
「明日の花を^め愛でるより、
今日の花に水をやりなさい。」

ヒバクシャから若いみなさんへ

あの時の本当に痛ましいありさまを思い出すたびに戦争、特に原爆ほど愚か^{おろ}で悲しいものはないとつくづく思います。2度とあってはなりません。



でも残念ながら戦争の種はたくさんあります。しかし全ての原因は私たちみんなの心の中にあるのです。ですからお互いが違いを認め合うことそして本当に心と心のふれ合う仲になる努力を忘れないようにしましょう。そしてしっかりあらゆる事を勉強して体を鍛^{きた}えて正しい判断のできる強く正しい人になってください。その上で世界中の人と手を取り合って核と戦争のない未来のために頑張^{がんば}ってください事を私たちは希望を持って期待しています。

被爆体験証言者^{しょうげんしゃ}

なかにし いわお
中西 巖

絵と音楽でつづる平和の集いにて



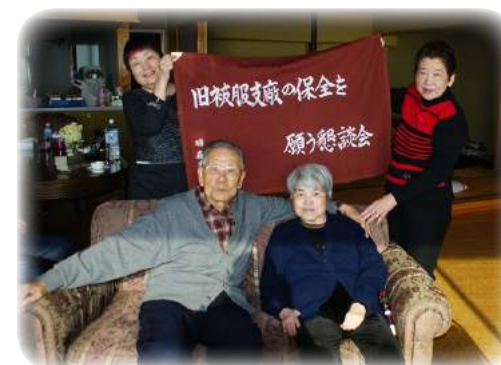
さく 森本順子^{もりもとじゅんこ}
作

さく 今田洋子^{いまだようこ}
作

両氏の絵を持って平和活動をする



高校で森本順子さんの絵を背景に講演



中西さんと森本さんとの深い絆^{きずな}

ヒバクシャから若いみなさんへ

1945年世界初の原子爆弾が広島と長崎に投下されました。罪のない市民、特に幼子^{おさなご}が多数犠牲^{ぎせい}になりました。私もその中の一人です。5歳を迎え、物心ついた頃^{ごろ}昨夜まで暖かい家庭がありました。8月6日には父は帰らぬ人となりました。私は助け出され、右腕を骨折しましたが、皆様のおかげで元気になりました。今日まで尊^とい命^{いと}を頂いております。

72年たった今、平和の実現を世界中が待ち望んでいますが裏腹^{うらはら}に国々が睨^にみ合い、緊迫^{きんぱく}した日々が続いています。もし戦争になったら私と同じような幼子^{おさなご}が犠牲^{ぎせい}になります。2度と戦争をしてはいけません。これからの日本を担^{にな}う皆様にバトンを渡します。

世界の子どもたちが手をとって仲良く暮らせますように

被爆者
ともひろ 友廣
みつこ 美津子



被爆者ファッションショーで
高校生にエスコートされる



きゆうにほんぎんこうひろしましてん
旧日本銀行広島支店でフラダンス



9歳で被爆した私は高松^{こうしゅう}で空襲にあい親子で広島に帰りましたが街の様子はすごく、何もなく原爆^{げんぱく}という事も知りませんでした。

今の日本では幸せに暮らせます。でも他国では悲惨^{ひさん}な戦争が多く子どもたちは食べるものもなく死んで行く様子を見てこの先何人の人が生き延び^のれるか考えさせられます。

若い人たちには自分の命はなんで生かされているかを踏まえ感謝できる人間になって欲しいです。また人を助けれる人間になってください。

被爆してもここまで生きれたことに私自身感謝しております。

被爆者
やまうち やすこ
山内 安子



ひとりいちりんせんにんけんか
一人一輪千人献花

ヒバクシャから若いみなさんへ

「ヒロシマのころ」の伝承

爆心地から4.8^{みなみくむかいなだ}回の南区向洋で被爆した3歳8ヶ月の私には、8月6日の記憶^{きおく}はほとんどありません。家が^{おうごんざん}黄金山の陰^{かげ}であったことなどから爆風や熱線^{えいきょう}の影響はなかったようです。しかし、目には見えない原爆の放射線^{ほうしやせん}（体外被爆）により、50歳で内分泌機能障害^{ないぶんびつきのうしょうがい}を発症^{はっしょう}しその後遺症^{こういしょう}と現在も闘^{たたか}っています。

2008年、ヒバクシャとしてピースボートによる4ヶ月間・20カ国^{ほうもん}を訪問し、戦争被害者や核実験被害者との「地球一周証言交流の旅」^{しやうげん}をしました。それを契機^{けいき}に修学旅行生相手に平和公園の碑めぐりや軍都広島^{ぐんと}の遺跡^{いせき}をめぐるガイドをしています。ガイドでは「ヒロシマのころ」とは何かを力を込めて語り継いでいます。それは「争いによる報復^{ほうふく}の連鎖^{れんさ}を断ち切る^た」ということです。「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命を奪^{うば}います。戦争は死そのものです」というパウロ二世の言葉を引用し、戦争の本質とその不条理^{ふじょうり}を説いています。

そして日常生活でも「愛しています。ありがとう。ごめんなさい。許してください」^{じっせん}が言える人になって欲しいと約束します。このことが「ヒロシマのころ」を実践する一歩になると信じているからです。



平和活動家として講演



内藤さんがとった写真

被爆者
内藤 達郎 75歳

私は今72歳です。8ヶ月で被曝^{ひばく}白血病^{はっけつびよう}でいつ死ぬかわからない子ども時代を過ごしました。20歳をすぎ結婚しましたが1ヶ月たった頃被爆者手帳^{ごろう}を持っていることが姑^{しゅうとめ}に知られ、「あんた被爆しとるんやね、被爆した嫁^{よめ}はいらんけ出ていけ。」と無理やり離婚^{りこん}させられました。

60歳すぎ頃から広島平和記念資料館のピースボランティアとして採用^{さいよう}され、20数年後でも差別があったことを知りました。そのことを知って欲しいと応募したところ松井市長が8月6日の平和宣言^{おうぼ}の中に私の言葉を読んでくださいました。この言葉は世界中に届きました。

何事にも差別はあってはいけません

ピースボランティア 被爆者
川島 智恵子



水の都 広島

次世代の方々へ平和への思い

今、世界はいろんな武器を、力として持ち備^{そな}える時代になりました。とても悲しいことです。核、サリン、ウイルス兵器、テロリストなど。それは人間の心が作ったもの。しかし、希望を持って欲しい。争うことよりも協力する力、支え合い助け合う力、平和な時代社会を生み出す一人一人になって行けることを願っています。

そのために私も力を尽^つくします。若い人たちの子どもの力がこれからの新しい力となることを祈^{いの}っています。

平和活動家
坪池^{つばいけ} さな江^え



昨年、被爆^{げんしよく}71年には現職^{げんしよく}として初めて広島に来られたオバマ大統領が平和公園を^{おとず}訪れた。テレビの前で涙^{なみだ}した方々もおられ、あらためて感動の一日でした。



私は現在^ひ碑めぐりガイドをして県外からきた修学旅行の子どもたちと接することの機会もあり、みなさん真剣に聞いてくれます。子どもたちを見るたびに将来の日本はどの方向にいくのか、世界では戦争テロでたくさんの方々が犠^ぎ牲^{せい}になっています。

一人一人が自分のできることで平和への流れを作りあげていければと広島^{さけ}の地から声を大にして叫びたい。

H P S 国際^{こくさい}ボランティア^{りじ}理事
田中^{たなか} 加代子^{かよこ}



オルガニストで各施設^{かくしせつ}で演奏



主に平和公園での活動

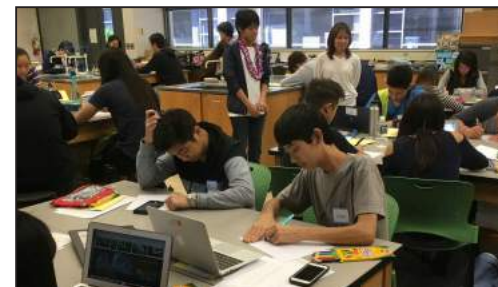
かげえ 影絵の活動



いのかげえ
小さな祈りの影絵展 8月5日、6日



青い空ヒロシマ



かげえ
ハワイの高校生に影絵の作り方を教える



かげえ ろうどく
影絵の朗読



せいぎくふうけい
青い空ヒロシマ制作風景



つる
パールハーバーで来場者に折り鶴を渡している

僕は幼い頃、広島に来て小学校、中学校で平和学習をしました。あまり平和について深く考えたことはありませんでした。大学2年生の時に友人に誘われて影絵の活動を始めました。最初はただ参加し、影絵を作っていましたが、活動をするにつれて、平和の大切さを感じるようになりました。平和がなければ、僕たちの日常はありません。8月5日、6日は平和公園で影絵を展示、また『青い空ヒロシマ』本の制作にも参加。今年、1月3日から8日にハワイに行き、プナホウ高校の生徒と交流しました。

かげえ
影絵ユースワークショップ所属
ひじやま だいがく ねん 4年 たけだ ともひろ
比治山大学 竹田 智博

紹介

広島市立広島商業高等学校^{しょうぎょう}＜市商＞の平和活動について

1941

太平洋戦争
開戦

えんかく 沿革

大正 10 年（1921 年） 4 月 広島市立商業学校 ^{そうりつ} 創立
昭和 17 年（1942 年） 4 月 広島市立第一商業学校と改称 ^{かいしょう}
昭和 19 年（1944 年） 3 月 広島市立造船工業学校と改称 ^{ぞうせん} ^{かいしょう}

戦時下では「商業教育は必要ない」と言われ、市商高校も広島市立
^{ぞうせん} 造船工業学校に変えられました。

先輩たちは、もう商業の授業が受けられなくなりました。

1945

終戦

昭和 20 年（1945 年） 8 月 原子爆弾により全校舎消失
^{ざいもくちょう} 材木町 ^{そかい} *1 で建物疎開作業 ^{かいしょう} *2 をしていた
生徒270名と教員3名が亡くなりました。
昭和 22 年（1947 年） 3 月 広島市立第一商業学校と改称 ^{かいしょう}
昭和 23 年（1948 年） 5 月 広島市商業高等学校 ^{そうりつ} 創立
昭和 55 年（1980 年） 4 月 広島市立広島商業高等学校と改称 ^{かいしょう}
平成 19 年（2007 年） 12 月 第1回広島市商ピースデパート開催 ^{かいさい}

^{ざいもくちょう} *1 材木町…現在の広島市中区 中島町のあたり

^{そかい} *2 建物疎開作業…^{くうしゅう}空襲による火事が広がるのをふせぐため、建物を壊して
空き地をつくること。



中央階段（137 段）から見た市商高校の校舎

広島では、県立広島商業高校を「県商」「広商」、市立広島商業高校を「市商」と呼んでいます。



^{そかい} 疎開作業をしていた材木町のあとにある石碑 ^{ざいもくちょう} ^{せきひ}

原爆資料館・東館の北側にあります。

1 市商卒業生の平和への取り組み



平和公園の桜は、市商の先輩たちが植樹

昭和 31 年 (1956 年)、広島市立商業学校の卒業生のみなさんが、
 平和大橋近くの土手に 150 本の桜を植えました。
 「原爆の犠牲になった人々の霊をなぐさめよう」「平和記念公園を
 もっと美しい場所にしよう」と考えたからです。
 現在も、春にはたくさんの人がやって来て、お花見を楽しみます。



しよくじゅ ひ
植樹記念碑 <表>



うら
<裏>



せんばい
先輩たちが植えた桜と
原爆ドーム



平和公園の中にある
いれいひ
市商高校の慰霊碑



いれいさい
市商高校の慰霊祭での
せんげん
共同平和宣言読み上げ

2 市商生の取り組み

01. 平和探求学習

生徒が先生役になって行う平和探求学習は、市商オリジナルの勉強方法です。「語り部」として他県や他国の人に「ヒロシマ」について語れるよう、知識と情熱を身につけます。



02. 広島原爆養護ホーム神田山やすらぎ園との交流



毎年5月ごろ、やすらぎ園の皆さんと平和公園の慰霊碑を参拝します。
他にも、秋のお茶会、広島市商ピースデパートの案内など、年3回ほど交流の機会を持っています。
利用者の皆さんとお話しする時間は、とても貴重で、楽しいものです。



03. 姉妹校である長崎市立長崎商業高校との交流



平成 19 年から始まった市商高校と長崎商業高校との交流を、生徒がふり返っている様子です。



平成 21 年に長崎市で開催された平和市長会議に参加しました。



毎年 8 月 9 日に行われる長崎商業高校の平和集会の様子です。



長崎商業高校での被爆アオギリ植樹の様子です。広島市から、被爆アオギリ 2 世の苗木を持っていきました。



市商高校での被爆桜植樹の様子です。現在の長崎商業高校の校内にある被爆桜をいただきました。

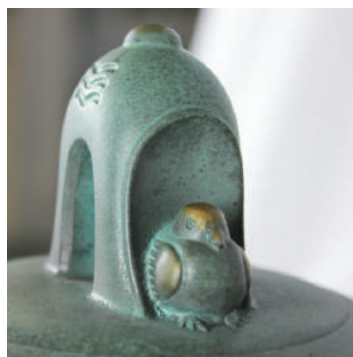


市商高校の正門横ですくすくと元気に育つ長崎の被爆桜。

3 「広島平和の鐘」 寄贈プロジェクト

姉妹校である長崎市立長崎商業高校から「長崎平和の鐘」をいただいたことがきっかけで始まりました。8月6日の平和記念式典で鳴らされる「広島平和の鐘」のレプリカを、平和を共に築く仲間に贈るプロジェクトです。

「希望」の文字は、広島市長 松井一實様に書いていただきました。



4 「はだしのゲンの麦」 プロジェクト

NPO 法人「一念発起」が始めた、「ゲンの麦を、ゲンの心と一緒に広めていこう」という取り組みです。広島市商ピースデパートでは、毎年、広島市立矢野南小学校の皆さんが店員となって「はだしのゲンの麦」を販売してくれています。

* 普段は、原爆資料館1階の売店などで購入することができます。



5 広島市商ピースデパート



広島市商ピースデパートは、生徒が中心となって商品の販売活動を行います。全国の学校デパートの中で唯一「平和」をテーマにしている、商業の勉強だけでなく、平和探求学習にも取り組んでいます。

また、利益の一部を広島・長崎の平和事業に寄付しています。

◀長崎の原爆資料館の館長さんに寄付している様子

ピース部門の取り組み



ピース部門の生徒は、モニュメント班、折り鶴班、やすらぎ園班、平和展示班に分かれ、デパートに向けて準備します。「平和探求学習」で先生役を務めるのも、ピース部門の生徒の仕事です。

大学生の思い

戦争のない世界になってみんなが
希望を持って過ごせますように

競争を無くさないと平和はこない

各国が兵器を作るのを禁止にすること
から、始めないといけないと思う

人殺しの道具が人よりも価値
が高い事実悲しくなる

かくよくしろん
核抑止論とか、そんなじゃなくて、
だれ かくへいき つか かくじっけん
誰も核兵器を使わなくても、核実験を
しなくてもいい平和な世界にしてい
かないといけない



じんしゅ しゅうきょう
人種や宗教問題、先進国が昔ばらまいた戦争のタ
ネが戦争の原因になっていたり、いろんな思いが
交錯していたりし解決するにはどうすればいいか
わからないし不安に思うからこそ平和になって欲
しい

テロや戦争のない平和な
世界であって欲しい

平和を実現するには、自分自身の価値観^{かちかん}
を再確認^{うたが}して疑うべき。一番正しいのは
ひょっとすると悪かもしれない

誰とも比較されない世界

私はこの本、全体を編集^{へんしゅう}している時に当たり前のことですが平和はいけないこと
だと思いました。そして私たち若い世代がまずしなければならないことは平和とは
何かということについて考えることだなと感じました。そして平和な世界にしてく
ために何か行動するべきです。現在でも戦争は起っています。それを無くし、今後
起きないようにしていくことが大切だと思います。

そして私は一人の科学をしている者として、科学が戦争に使用されることを望み
ません。

岡山大学農学部2年 佐藤 太紀^{さとう たいき}



平和の願いをつなぐ

広島市立^{かわうち}川内小学校

1. 川内から命をつなぐ

私たちの住んでいる川内は、国民義勇隊^{ぎゆうたい}で建物疎開^{たても の そかい}に行った中島町^{なかしまちょう}で被爆したという悲しい歴史をもっています。

1945年8月6日、一瞬で村の200名近い人々が帰らぬ人となりました。

それは、建物疎開^{たても の そかい}最後の日でした。その歴史を子どもたちは自然から学んでいます。

春の満開^{まんかい}の桜は、豊かな心を運んでくれます。生き物たちは自然の逞しさ^{たくま}を伝えてくれます。

そして、学校で取り組んでいる栽培活動^{さいばいかつどう}は、命がつながっていることと共に、この「広島菜」^{ひろしまな}が川内にとって平和をつなぐ大切な野菜だったことを地域の方との学習から学びます。

学校の中にある「川内村戦没者死者供養塔」^{かわうちむらせんぼつしゃ ししゃ くようとう}は、その歴史を刻んでいます。そして、その周りで遊んだり、話をしたり、笑ったりしている私たちの学校生活を、そっと見守っているようです。毎年、8月の始めの土曜日に合同の慰霊祭^{いれいさい}が川内小学校で行われています。そのときの児童代表の言葉の一部です。「・・・私達は、たくさんの命が奪われ、体や心に大きな傷^{きず}を残した戦争が二度とおきないようにと強く思いました。このような戦争を二度と繰り返さないために未来の子孫に語り続け、戦争のない平和な世界をつくるために呼びかけ続けます。私達の思っている平和な世界は、笑顔・思いやりがあふれる世界です。そんな世界を創^{つく}っていくので、これからも見守ってください・・・」



このように、「命がつながっている」ことに感謝して歌や作文で気持ちを表現しています。平成28年8月には、被爆71年第28回広島市民平和の集い^{つど}「世代を超えてヒロシマから世界へ」への参加をし、思いを共有することができました。

2. 被爆者の思いをつなぐ

広島女学院高女^{じょがくいん こうじょ}2年生の時に被爆され、現在オーストラリアに在住^{ざいじゅう}されている絵本作家の「森本順子^{もりもと じゅんこ}」さんが、一時帰国されていたとき、子どもたちと触れ合う時間をもちたいという希望から、共に時間を過ごす機会^にをもちました。森本さんの願いは、次の世代を担^かう子どもと一緒に絵を描きたいということでした。体育館で、シーツを2枚つなげた大きなキャンパスに墨^{すみ}で描くというという大がかりなものでした。静かにピアノの演奏が聞こえる中で、無心^{むしん}に絵を描^かかれる姿は、言葉には表せない思いが、その小さな体から伝わ^{あふ}ってきて、そこにいるものは、子どもも教師も自然に涙^{なみだ}を流していました。「全身から思いが溢れている」それは言葉よりも何よりも伝わる心でした。



その絵に、森本さんの言葉を教師が書き、子どもたちが自由に火の粉を「赤の絵の具」でつけました。森本さんと子どもと教師が心を1つにして完成した作品です。



「 みんな ひとりぼっちで 死んでいった
人間が 人間を焼き殺す
二つめの太陽は もう要らない 」

その時間を共有した私達教師は、この絵を順番に引き継いでいく約束をしました。

今、その絵が私のところにあります。もう少しして退職^{たいしよく}したら、その絵は次の教師へとつないでいきます。森本さんが残そうとした広島^{ひび}の豊かな生活や美しい自然、それを一瞬^{うば}で奪ったできごと。その思いが痛いほど伝わり、響いてきます。

私達にできること、それは教育を通して平和の大切さを伝えること、命の大切さを伝えることだと思っています。



世界のみんなで

手をつなごう



イラスト 片山 貴美子 Kimiko Katayama

伝えよう みんなの思い 忘れない

昭和 20 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分。広島に一つの原子爆弾がおとされました。その時の熱線の温度は 5,000 度だったと聞きました。太陽の温度は 5,700 度なので、広島に太陽があらわれたようなものです。たくさんの人の命がうばわれました。

「あついよう。」

「水がほしいよう。」

と、人びとは苦しみ、家は爆風でとばされ、地獄^{じごく}のようだったそうです。そして、その後にアメリカとの戦争はおわりました。しかし、地獄^{じごく}のような日々は終わっていませんでした。放射能^{ほうしゃのう}により、さらに多くの人びとがくるしみ、なくなったのです。そして今も苦しんでいる人^{ひと}たちがいます。このような戦争を、2 度とおこさないために、どうすればいいのでしょうか。私は世界の人びとに原爆のおそろしさ、戦争による苦しみやかなしみ、2 度とあってはいけないということを伝えて、世界の人と仲良くし、平和な世界にしていきたい^{おも}と思います。



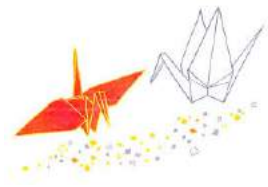
平和のテーブルとは

『平和のテーブル』これはまほうのテーブルです。
このテーブルをかこみ、平和のテーブル平和に
なあれとじゃもんをとえると、世界の人
が平和になれる、ふしぎなテーブルです。みなさ
んも読んでみましょ。せーの
『平和のテーブル平和になあれ。』

広島大学^{ふぞくしのめ}附属東雲^{ねん}小学校 3 年
片山^{かやたま} 貴美子^{きみこ} (8)



2017 年 もりもとじゅんこせんせい
森本順子先生と



第28回広島市民平和の集い ～世代を超えて広島から世界へ～



ひばくしゃはつ

被爆者初のファッションショーと

あお そら

青い空ヒロシマの

かんせいひろukai

完成披露会

HPS 国際ボランティア主催 2016年8月8日開催

さんかしやぜんいん しゅうごうしやしん
参加者全員の集合写真



が か もりもとじゆんこ
画家森本順子のライブペインティングで描かれた絵
おも けいしやう
想いを継承して毎回展示



おも がっしやう
平和の想いを込めての合唱



かわうちしやうがっこう
川内小学校の児童たち



はぐくみの里のみなさん



広島ジュニアマリンバアンサンブルの演奏

被爆者初のファッションショー 戦後の苦難を乗り越えて、今生きる命の輝き、笑顔と笑顔で結ぶ明日の平和



被爆者勢揃い（一般の方々とむつみ園の方々）

協賛
エルセルモ広島
ファッションセラピー
ANT-Hiroshima
提供
(株) にしき堂
(株) マイ・コック



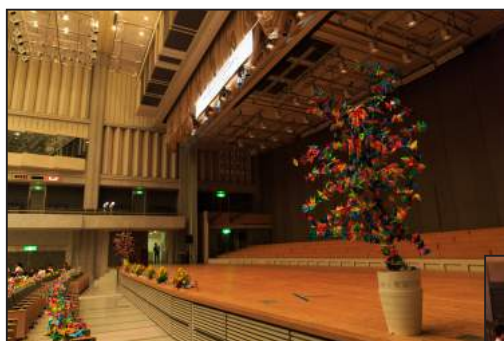
世代を超えて命のバトンを



被爆者をエスコートする若者



ファッションショーを支える一同



御霊席

万人の祈りの樹



販売するスタッフ



青い空ヒロシマの実行委員

開演前の舞台の様子



司会 内海 雅子



実行委員長 渡部朋子 山田校長

いれいもち
慰霊餅つき大会の様子

2017年 大雪の中で



もち米提供 JA 全農ひろしま



HPS 活動記録

いの へいわ つく へいわ
祈る平和から創る平和へ
みんなで力を合わせる



2014年一万本目の
千人献花はインドの人でした



きゆうにほんぎんこうひろしましてん ついでうさい
旧日本銀行広島支店での追悼祭

2017年1月1日 ひとりいちりんせんになんけんか
一人一輪千人献花の完成



13年間協力していただいたスタッフ一同
有限会社フィンフィ 代表 佐藤隆治



ひとりいちりんせんになんけんか
一人一輪千人献花の様子

提供 竹と添え木 さえき 佐伯国際アーチャーランド 生花千本(株) 花満



きゆうにほんぎんこうひろしましてん いれいさい
旧日本銀行広島支店での慰霊祭



みなさんに500杯のぜんざいを接待
協力 甘日市ひよっとこ踊り愛好会



月に一度のクリーンキャンペーン



げんがてん いれいさい
青い空ヒロシマの原画展 (慰霊祭)



← 被爆70年を記念して折り鶴
再生紙に平和への願いを込めたしお
り。広島市の小中高生に在校生全員
配布。



青い空ヒロシマの結成 慰霊祭 (供養塔にて)

HPS 活動記録

いの へいわ つく へいわ
祈る平和から創る平和へ
みんなで力を合わせる



つど
平和の集いの様子



いれい ぼんおど
(慰霊) 国内外の人達と平和公園での盆踊り
生きている喜びを分かち合う



てづく どうろう どうろうなが
手作り灯籠に平和のメッセージを乗せて灯籠流し (8月6日)



平和公園にて



ギリシャの大学生と子ども達



ギリシャとの国際交流



もりもとじゅんこ こうえん
森本順子さんの意思を引き継いで MY HIROSHIMA を使って講演



国際交流



えほん さつかもりもとじゅんこ が かいまだようこ
平和公園メモリアルホールにてライブペインティングで絵本作家森本順子さんと画家今田洋子さん



うった ひさん
絵で訴える原爆の悲惨さ



森本順子さんの意思を引き継いで
絵を背景に平和の大切さを伝える (佐藤廣枝)

しゅっぱん 今まで出版してきた本

私が本の出版を手掛けるまでには、ものすごい勇気がいりました。私は中学にも行けず、戦後食べていくことに精一杯で、平和イベントの主催も身一つで行なっていました。

2008年ピースボートで森本順子さんと出会いました。順子先生は美術大学を卒業し、教員を経て絵本作家として14冊の絵本出版しました。その中に絵本「マイヒロシマ」も含まれています。海外で絵を持って、平和活動をされる姿に感銘を受け、尊敬と憧れから、お手伝いをさせていただく決心をしました。

順子先生は77歳なのにパソコンを自由に使われていました。漢字を知らない私にパソコンをすすめて下さりました。メールが打てるようになると「ようやく今日は花丸を上げよう」、「今日は二重丸」、「これは一重丸」と70歳の私にメールで手紙のやり取りをし、文字を間違えると叱られ、私は悔しくて1ヶ月で、メールのやり取りが出来るようになりました。そしてブログを通して、文章の書き方を一から教えられ1年後には絵本「マイヒロシマ」を日英併記で出版をさせていただきました。

私はそのご恩に答えるために4年間で約5万冊出版し、平和公園に訪れる生徒、観光客、広島市内の小中学校に配布しました。また順子先生が教員をされていた交野市小中学校をはじめ県内の小中学校や、ギリシャ、ブラジル、モンゴル、韓国、中国などにも配布しました。

2013年から私の体験記である絵本「ピカドン」、2014年には「原爆ドームは語る」、2015年には7番目と15番目の孫と「ここより永遠に」、「菜の花のように」、2016年には9番目の孫である広島大学4年生が代表を務め、初めて子どもたちの手だけで絵本「青い空ヒロシマ」を出版しました。これまで出版した本は全て広島市立の小・中・高校に配布し継承活動を実践してきました。

これからも学生や被爆者、広く一般に呼び掛けて後継者を育てて行きたい。命のある限り私の使命として。

こくさい
HPS 国際ボランティア
さとう ひろえ
理事長 佐藤 廣枝



あとがき

この本の出版に際しご協力、ご支援いただいた皆さまに心から厚くお礼感謝申し上げます。これまで私の望みである「広島から世界へ、祈る平和から創る平和へ」の理念で様々な活動をして参りました。



しかし私どもが活動するだけでは、真の継承にはなりません。多くの人に呼びかけ、広島の心を次世代へ繋いでいくことが大切です。そこで未来を担う子どもたちへの「メッセージ記録集」の出版に至りました。それを各小中高校へ配布する事により、「ヒロシマの心」を広めるという目的の一助となると信じます。

就活や学業に忙しい中、時間を割いて集まり編集する子供たちの姿は、尊くもまぶしく嬉し涙を流しながら見守ると同時に、大きな希望の光を見ました。プロの指導を仰ぐことも考えましたが、彼らが自分達の思いで作りが自信になり、今後はもっと良いものへと進歩の道をたどると信じました。

この本に込められたメッセージは戦争の愚かさ、原爆の恐ろしさ、命の尊さ、平和の大切さで溢れています。広島人として人間として自分に出来ることを見つけて、新しい一步を踏み出す勇気を持ってください。ご覧になった皆さんと一緒に、笑顔で幸せに暮らせる未来を目指しましょう。

最後に、この本の制作にあたったスタッフの皆さん、本当にありがとうございました、そしてお疲れさまでした。重ねて厚くお礼を申し上げます。

未来を担う人たちに

私が平和公園に立ったのは母が亡くなって3回忌を迎えたときでした。あれから約30年いろいろなことに挑戦できたのは母の遺言があったからでした。「廣枝、本当に親孝行したいと思った時、周りの人にやさしくしてやれ」、「我が子がかわいかったらよそ様の子どもを可愛がってくれ、子どもがお前を超えたときお前は何も出来ない。しかし周りの人に優しくすれば、息子や娘が行き着いたところの方たちがお前の子どもを見守って下さるよ。」

50歳まで、そんな言葉を信じることができませんでした。今その通りだと実感しています。市商高校は、大好きだったたった一人の兄の母校です。中学1年で学徒動員で195人の同級生と共に一残さず犠牲になりました。その母校の先生方、兄の後輩の生徒達と共に活動出来る幸せを今かみしめています。

どうか皆さん自分は微力でも人には言葉があります。まず身近な人に自分のやりたいこと伝えて下さい。真剣に話すことで必ず一人二人と仲間が出来てきます。私はそれだけを勇気を持って続けています。

HPS 国際ボランティア 理事長 佐藤廣枝

奥付

被爆72年

御霊への誓い

2017年6月吉日 初版第一版発行

発行者 NPO 法人 HPS 国際ボランティア

〒733-0822 広島県広島市西区庚午中 1-6-20-202 TEL 082-273-9071

Email satouhps@gmail.com

企画 NPO 法人 HPS 国際ボランティア

編集代表 佐藤 太紀

編集構成 広島市立川内小学校 学校長 山田 明美

比治山大学4年 竹田 智博

岡山大学農学部2年 佐藤 太紀

広島市立商業高等学校 3年 阿部 更紗

2年 尼崎 咲良、安齋 紗菜、木原 諒、近藤 風樺

1年 増田 奈乃佳

広島大学附属東雲小学校 3年 片山 貴美子

印刷 鯉城印刷株式会社

協力 木野川紙業株式会社

*本書は「原爆死没者慰霊等事業」の補助を受けて制作されました。

落丁・乱丁本はお取り替え致します。



此、平和な青空と
永遠に。



じゃしん ないとうたつろう
写真 内藤達郎